

○三人上戸酒癖

△「ア、悲しい〜米は母年  
出来が宜のよ天気が字直段  
も穿〜と言ふんだから豊  
年ハ續く金満家ハ獲る実々  
仕方泣言をかり〜ホーッ  
ヲ、リ〜」△「夫とてころろ  
落しめ〜此方ハ毎日〜敏示目  
もものぐ〜品物を賣て困ら  
賣て通へ千両一時ト都々逸  
有ア落しめへ腹がたてあらね  
ワ、ヤイ〜アハ〜〜〜ワハ〜  
此奴可笑しい貴公達の言〜  
皆目出度事〜いふら夫を怒  
たり泣く〜酒〜氣〜  
あ〜テワ〜〜」△「馬鹿ア  
言積ま〜つ〜成無〜ヤ〜私も癪  
ふ〜〜〜悲〜」△「私癪  
るハ妙酒を呑だり治り〜  
ものぢや〜酒〜癪薬の長〜  
い〜カ〜」△「私癪は  
起り過たの〜から治りやせん  
〜ソリヤア癪が〜たのぢや〜  
るよ〜酌〜過〜の〜だ〜ハ〜

竹葉舎金升



明治廿一年七月廿日印刷同年七月廿日出版

著作 印刷兼發行者 神田區松任町三番地小川夕ヶ

酒機嫌十二相之内 六種 文庫10-8349-3

早稲田大学図書館蔵 / Waseda University Library

